

例題 3

A B
 100g あたり 500円 のお茶 A と、 200g あたり 1500円 のお茶 B をそれぞれ何 g か混ぜて、
 500g あたり 2850円 のお茶 C を作ります。お茶 C を 500g 作るには、お茶 A 、 B をそれぞれ何 g 混ぜればよいですか。

A と B のお茶の 1g あたりの値段を出します。

$$A \cdots 500 \div 100 = 5 (\text{円}) \quad B \cdots 1500 \div 200 = 7.5 (\text{円})$$

↓

「 1g あたり 5円 のお茶 A と、 1g あたり 7.5円 のお茶 B を……を混ぜて 500g 2850円 のお茶 C をつくります。」という普通のつるかめ算になります。

↓

500g 全て お茶 A とすると 代金は、

$$5 \times 500 = 2500 (\text{円}) \quad \text{実際は } 2850 \text{ 円}$$

ここで つるかめ算です。

お茶 B の量は、

$$(2850 - 2500) \div (7.5 - 5) = 140 (g)$$

お茶 A の量は、

$$500 - 140 = 360 (g)$$

($2850 - 2500 =$) 350 円の差は

B も 5円 で計算をしてしまったからです。

とりちがえた回数は、差の 2.5円 でわれば大丈夫。

お茶 $A \cdots 360\text{g}$ お茶 $B \cdots 140\text{g}$